

ビルマの豎琴

無残な戦場の痕をさまよひ

崩れ行く死体を埋め

鴉の群がる中あちこちの遺体を山にして火を放つ

戦火が収まったからと言って

このまま祖国に帰国して

自分の幸せ作り直すことが

出来なかった「水島上等兵」

あなたの弾く豎琴の音は

戦友達の胸にどう響いただろう

コーラスのハーモニーのように

堅く結びついた友情を截ち切つてまで

あなたをビルマの地に

命を落として朽ちて行く兵士達の骨に

錨のように結びつけたもの

それこそ人間の真髓なのではないか

それなのに六十年以上経っても

世界のどこかに殺し合いが跡を絶たない

あなたの豎琴の音色は

未だに重く、鮮烈に、悲しく伝わって来る

殺した人間が殺された人の骨を拾い尽くすまで

新しい戦争を始めぬと誓っていたら

まだ戦争の準備どころではないだろうに

人間の愚かさは巨大な「ビルマのルビー」を覆う

皮膚のように張付き薄汚れた襪褌衣

自らの身を守ろうとする仕組みが

人の命を断ると命ずる

それに従って自らも砲火に身を投ずる

人間の知恵は大量虐殺の道具を次々と産み出す

やがて地球は巨大な燃える火の玉と化し

光を放つルビーを夢見ながら死滅するのか

ビルマの豎琴よ

その調べを奏で続けよ

人がその襪褌を筆り取らぬ限り…

(2008.3.26 懐かしい名画と再会して)